

驚異的な成長を示す熱帯早成樹

藤 本 高 明

熱帯雨林は、その地球上に占める割合の多さだけでなく、生物の多様性・CO₂固定能など多くの点で

わめて重要な役割を持っています。今世紀中頃からの大規模な商業伐採や焼き畑などによって、熱帯雨林は壊滅的な打撃を受けました。これは、地球環境問題にも大きな影響を及ぼしています。

その後、草地と化したそれらの場所に植えられたものが、アカシア類(写真)、ユーカリ類などの早成樹種でした。これらの樹種は、その名のとおりきわめて成長がよく、中には年平均成長量が100m³/haを超え

林産式だより 1999年7月号

るものも珍しくありません。現在までに造林された早成樹種の面積は約6億haにいたっています。

熱帯産の樹種は、温帯産のものとは違う興味深い特徴を多く持っていますので、現在も様々な研究、調査が行われています。近年、上記の早成樹種についても、成長特性・木材性質などに関する報告も増えてきています。例えば、アカシア類の交雑種の材質特性や繊維長、成長輪などの木材組織構造などについて木材学会等で発表されています。

熱帯早成樹種は、もともと森林再生や薪炭・パルプ用材生産などを意図して造林されてきました。今後は、これらの用途を広げ、さらにその用途に結びついた森林施業技術を確立することが重要な課題です。そして、いずれは本来の熱帯林の姿に戻ることが望まれます。

(林産試験場 材質科)



写真 1年生のアカシア・マンギウム
(ボルネオ島南部)